

科目名	医薬品化学		学年	類型・コース	単位数
			3年	総合選択 E2・工業(バイオとかがく)	2単位
学習の目標	医薬品の体内での作用を理解し、適切に薬を活用する知識を身につける 各種医薬品の効能を化学的に理解する				
教科書 副教材	主たる教材：自作プリント 副教材：初めての一步は絵で学ぶ薬理学（じほう）				
評価	評価法	定期考査や小テスト、提出物の内容、授業に対する取り組みや意欲を総合的に評価します。特に定期考査では観点別の問題により、その状況を確認します。			
	評価 観点の 趣旨	a	知識・技術	基本となる医薬品の性質や働き、関連する生理作用を理解しているか定期考査や小テストなどで確認します。	
		b	思考・判断・表現	なぜそのような効果が発現するのかを説明できるかを授業での発表や反応、レポート、定期考査などで確認します。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	授業での発表や反応、理解を深めるノートやレポート、追加課題の考査への出題などで主体的に取り組んだかを確認します。	
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～10の10段階）にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～5の5段階）にまとめます。					

期	月	時数	学習項目・単元	学習内容	評価方法		
					a	b	c
1 学期	4月	6	薬の基礎知識・体内動態 細胞の働きとウイルス	薬に関する一般的な知識 細胞の働きと生物とウイルスの違い	定期考査	定期考査	定期考査
	5月	8	抗ウイルス薬 細菌感染症と抗生物質	ウイルスの増殖を防ぐ薬の仕組み 抗生物質の種類と働き			発表 反応
	6月	8	がん細胞の特徴とがん 抗がん剤	がん細胞の特徴 がんの増殖を防ぐ薬の仕組み	小テ スト	発表 反応 レポ ート	レポ ート
	7月	4	神経伝達の仕組み アゴニストとアンタゴニスト	神経伝達の仕組みを理解し、アゴニストとアンタゴニストの概念を理解する			レポ ート
夏休み							
2 学期	9月	8	心と神経系に働く薬①	うつ病・統合失調症・てんかんなどの原因とその治療薬の仕組み	定期考査	定期考査	定期考査
	10月	8	心と神経系に働く薬②	睡眠や痛みなどの生理現象とその治療薬の仕組み			発表 反応
	11月	8	体内機能のコントロール・自律神経・血圧や利尿の薬	体内の恒常性を保つ自律神経とその仕組みを利用した薬の仕組み	小テ スト	発表 反応 レポ ート	レポ ート
	12月	4	生活習慣病とその治療薬	脂質異常症や糖尿病など生活習慣病の原因とその治療薬について			レポ ート
冬休み							
3 学期	1月	6	免疫機能とアレルギー 炎症反応と血液凝固	生体防御の仕組みを知り、それを抑える薬の働きと活用方について	小テ スト	発表 反応 レポ ート	発表 反応 レポ ート
	2月						レポ ート
	3月						レポ ート

担当者からのメッセージ（学習方法など）
シラバスは理想的に進んだときの内容であり、理解の状況によって進度を調整するため最後まで進まないこともある。教科書に沿いながら生理（人体の働き）を学習したり、今日的な内容も加えたりしながら授業を進めるため、ノート・メモをしっかりとることを心掛けること。